

種目名	国語	選定替えの有無	有・無	選定発行者名		従来の発行者名	光村図書
-----	----	---------	-----	--------	--	---------	------

発行者 観 点		東京書籍	学校図書	教育出版	光村図書
1 学習指導要領との関連		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨をきちんと反映している。想像させたり読み比べさせたりする学習内容が多く「思考力や想像力を養う」ことにつながるものと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨をきちんと反映している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨をきちんと反映している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨をきちんと反映している。話し合いの話例やどの場面でどんな対話を入れるとよいかが示されており、対話的な学びのイメージがつかみやすく、主体的に対話によって学びを深めていくことができる。
2 「あいちの教育の基本理念」との関連		<ul style="list-style-type: none"> 生き方に触れる教材や世界に目を向けて意見文を書かせる学習が取り入れられており、「あいちの人間像」である「共に生きる」「世界にはばたく」に合致するものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 異なる文化や価値観に触れる教材が取り入れられている。「多様な人々の存在を尊重して生きることのできる人間」というあいちの目指す人間像に合うものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝記や生き方を考える内容の教材が取り入れられており、「自らの力を社会に生かすことのできる人間」を目指す基本理念と合致する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生き方について、さまざまな人の考えに触れられる教材が取り入れられている。「あいちの人間像」である「自分を生かす」「世界にはばたく」に合致するものである。
3 内 容	(1)内容の選択	<ul style="list-style-type: none"> 学習過程の適所に「言葉の力」に関わる「問い」を投げ掛け、児童が言葉による見方・考え方を働かせながら「問い」を追究し、学びを深めることができるようにしている。 各単元の最後に設けた「生かそう」では、単元の学習で身につけた「言葉の力」を他教科等の学習や、日常生活に生かす観点が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構造や表現を比べて読むことができ、それぞれの特徴の違いを学習し、筆者の述べ方を吟味・評価し、児童自身が立場を明確にしながら、考えを形成できるように、教材を配置している。 各学年でつきたい力を、上巻の巻頭に、領域別に一覧で示しており、一年間の学習の見通しがもてるように工夫してある。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考を整理したりまとめたり、可視化したりするための付箋やカード・ノートの使い方が例示しており、わかりやすい。 「読むこと」の教材の主要な単位には、「単元とびら」を設け、これからの学習の目標と、児童の「読みたい」という意欲を喚起する一文を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が考えを深め、表現するための手がかりとして、分ける・比べる・つなげる・広げるなどの思考を表す表現や、表・マッピング等の思考ツールが活用できるように工夫されている。 「情報の扱い方に関する事項」について特化した「情報」の項目を設け、重要なポイントを端的にまとめている。 見開きページで学習活動が一覧できるようにしてあり、学習の見通しがもてる工夫がされている。
	(2)内容の程度	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」においては、物語文や説明文だけでなく、書く領域でも児童の発達段階や日常生活をよく考慮した内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、目的や意図、立場を明らかにして学習させようとしており、児童の発達段階を考慮した内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」においては、どの学年でも自分の考えを明らかにして話し合いをさせるよう編集されており、児童の発達段階にあった内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」においては、物語文や説明文に、読みやすい書き下ろしの作品をどの学年でも採用し、児童の発達段階をよく考慮した内容となっている。

	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を結びつけて学びに活かし、プレゼンテーションする活動を取り入れており、他教科・領域を横断的に学習することができる内容となっている。 どの学年でも、学習課題に対して「つかむ」「取り組む」「ふり返る」の3段階のステージから構成されており、学習を深められる内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科や実社会の問題をより客観的に捉え考えることができるよう、「論理的思考力教材」「感性的思考力教材」を新設しており、他教科・領域にも活用できる内容となっている。 「基礎的な技能」や「学習態度」の育成を考慮し、「書くことレッスン」や「話すこと・聞くこと」の小教材を設けており適切な内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や他教科の学習にも生かせるよう、より多様な言語活動を取り入れている。特に6年生では、自分の見方や考え方を随筆で表現できるような内容となっている。 「言葉の力」と「考える力」を育むことを主軸に、文章から特定の語句を読み取るポイントを「ここが大事」で表すなどして、言葉への気づきを深く考察できる内容となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動に思考力を育成するための教材を系統的に配置しており、実生活や実社会と関連づけやすい内容となっている。また、書く活動のために巻末に見開きの「言葉の宝箱」があり、語彙の獲得に有効な内容となっている。 どの学年の課題も「主体的・対話的で深い学び」を意識した編集で、「国語の学びを見わたそう」や「たいせつ」「いかそう」の新設で発展的な学習に結びつけやすい内容となっている。
(3)内容の構成	<p><u>東京書籍</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、それぞれの最初に学習目標や計画が明示されている。「読むこと」の単元では、教材文の最後に学習目標や計画が明示されている。 各事項とも、系統・配列・分量は適切である。 各領域の系統・配列・分量は適切である。また、単元の最初のページに「話す・聞く」「書く」のように見出しがつけられ、どの領域の学習であるか児童が意識しやすくなっている。 言語活動は、学年に応じて主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 読書指導においては、「こんな本もいっしょに」というコーナーがあり、教材と関連した図書に興味をもたせるような配慮がされている。 	<p><u>学校図書</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の単元では、「学習のてびき」というページがあり、学習目標や計画が示されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、最初に学習目標があり、教科書の内容とともに計画が進んでいくように配慮されている。 各事項とも、系統・配列・分量は適切である。巻末には資料として、国語の授業で使われる用語がまとめられている。 各領域の系統・配列・分量は適切である。 言語活動は、学年に応じて主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 読書指導においては、「この本読みたいな」というコーナーがあり、教材と関連した図書に興味をもたせるような配慮がされている。 	<p><u>教育出版</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の単元では、教材文の始めに学習目標が書かれている。学習計画については、「①確かめよう②考えよう③深めよう④広げよう」の順に、分かりやすく書かれている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、最初に学習目標があり、教科書の内容とともに計画が進んでいくように配慮されている。 各事項とも、系統・配列・分量は適切である。 各領域の系統・配列・分量は適切である。 言語活動は、学年に応じて主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 読書指導においては、「本を読もう」というコーナーがあり、教材と関連した図書に興味をもたせるような配慮がされている。 	<p><u>光村図書</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」の単元では「見通しをもとう」というページがあり、学習目標や計画が明確に示されている。「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元では、最初のページで学習目標があり、教科書の内容とともに計画が進んでいくように配慮されている。 各事項とも、系統・配列・分量は適切である。 2年生以上では学習指導要領で新設された「情報の扱い方に関する事項」をわかりやすく教材化している。 各領域の系統・配列・分量は適切である。また、単元の最初のページに「話す・聞く」「書く」のように見出しがつけられ、どの領域の学習であるか児童が意識しやすくなっている。 言語活動は、学年に応じて主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 読書指導においては、「本が友達」のページが設けられ、教材と関連した図書に興味をもたせるような配慮がされている。

4 表記・表現 及び使用上の 便宜等	<u>東京書籍</u> <ul style="list-style-type: none"> 単元のはじめに、単元名・ねらいイラスト・紹介文などわかりやすく配置し、児童の興味をひく内容となっている。 手引き・練習・まとめがわかりやすい形で掲載されている。 漢字・語句の扱いが適切である。 	<u>学校図書</u> <ul style="list-style-type: none"> 1年上でインデックス形式のページ構成が児童の興味をひく。 学習のねらいやの提示は同じ色で統一され、観点のイラストが加えられてわかりやすい。 「感想を伝え合う」という学びを広げる活動がよい。 掲載されている写真に詳しい説明文がつけられている。 	<u>教育出版</u> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と学習のめあてが記載されており、学ぶことが具体的にわかる。 「言葉を学ぼう」「言葉を増やそう」という項目が設けられ、具体例が表記され、わかりやすい。 子どもたちの会話が書かれたた吹き出しが多く、児童の関心を引く工夫がされている。 	<u>光村図書</u> <ul style="list-style-type: none"> 単元の目標と学習のめあてが記載されており、学ぶことが具体的にわかる。 各単元の学習のまとめで「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」と深い学びにつながるような設定になっている。 重要語句が絵やわかりやすく説明してある。難しい語句・文章にはQRコードがついていて、読み取ると画像や文章の朗読が表示される。
5 印刷・造本 等	<ul style="list-style-type: none"> ページの下に5行ごとの行数とドットが示されており、行数がわかりやすい。 造本や体裁が整っており問題はなし。 	<ul style="list-style-type: none"> 印刷の鮮明度、文字の大きさが適切である。 全学年上下2冊で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真・挿絵が鮮明である。 全学年上下2冊で構成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 発色が美しく、低学年にインパクトがある。写真が多用され、鮮明で美しい。 文字は読みやすく、書き文字に近いため、正しい字形を意識させることができる。